

- 特集
- ◇シリーズ「教育のICT化」②電子黒板とタブレットPC
  - ◇シリーズ「言語活動の充実」②“学習指導要領から授業をつくる”
  - ◇特集記事「特別支援教育の視点を踏まえた分かりやすい授業」

## 「結果に結びつく研修の創造」

研修部長兼教科・経営研修課長 梶山 和彦

教育センターは、年間130本程度の所内研修講座の他に、出前講座やセミナーなどを100本程度、合わせて200本を超える講座等を実施しています。各担当は工夫を凝らしながら先生方に役立つ研修となるよう努力しているところです。

ところが、「学力向上」については、毎年の学力調査の結果に表れているとおり課題の改善までには至っていません。また、本県の課題である「いじめや体罰の防止」についても同様の傾向にあり、研修機関である教育センターといたしましては、その責任を痛感しているところです。

このような思いから、

- 事前準備の充実による、実効性の高い研修講座
- 成果の確認までを追求する出前講座
- 管理職の教科指導力UPに向けた演習の充実

などの視点で各研修の見直し改善を図っています。

特に出前講座につきましては、総論的、一般的な研修内容ではなく、学力調査等の結果から見える当該学校が抱えている課題を明確にし、その改善に直結する

講座内容になるよう刷新を図っているところです。

また、研修以外においても

- 小中学生の活用教材
- 高校生の「学び直し」授業動画
- 校内研修の活性化支援ツール
- ICT機器を活用した教材の開発、提供

など、さまざまな教材等を作成し、Webアップをし、側面的な支援の充実にも努めています。

「活動あって学びなし」と言いますが、教育センターの業務に置き換えますと「作成したが 成果は？」となっていないか洗い直しているところです。

「研修をしました。」で終わらず、「研修をして実践をし結果を出せました。」という成就感のある研修へと高めていきたいという熱い思いです。

「頼られる教育センター」として、先生方といっしょになって結果に結びつく研修を創っていきたいと思いますので、9月からの研修につきましても、なお一層のご理解とご協力をお願いいたします。



## 大丈夫ですか？あなたの著作権知識と意識

先生の姿勢が伝えます!

「授業で使うから大丈夫」「子どもたちのためだから大丈夫」そういう思い込みで、「教材サンプルのコピー」、「教科書画像やテレビ番組の録画データをサーバで共有」、「パソコンソフトの複数台へのインストール」、「子どもが作るレポートや教員が作る学級通信にWebページから、画像や文章をそのままコピー」などを行っている方はいませんか。



これらは、著作権者（つまり販売元）の利益を不当に害してしまったり、授業での使用ではなかったりするため、著作権法違反となります。

ただし、学校などの教育機関においては、その公共性から例外的に著作権者の了解を得ることなく、一定

の範囲で利用することができるという、「例外措置」があります。その中には、教材として使うために他人の作品をコピーし、配布する場合の項目もあります。

そこには著作権者に許可なく利用するための多くの条件が示されています。

その中でも特に大切なポイントとして挙げられるのは、「授業を担当する教員本人が児童・生徒が、必要な限度内、つまり、必要な数だけコピーし、著作権者の利益を不当に害することがないようにする。」ということです。

また、資料やレポートの中で他人の画像や文章を「引用」する場合にクリアすべき条件のポイントは、「引用の分量については、他人の作

品が『従』で、自ら作成する部分が『主』であること」、「引用部分は、カギ括弧などで、明確にすること」、「出所の明示をすること」などです。

「著作権」に関する教師自身の意識の高さが、「このコピーは、授業の中だからできるんだよ。」という日常的な教師の言葉や所作となって児童生徒に伝わります。児童生徒の情報活用能力を総合的に高めるのは、教師であるあなた自身の在り方です。

### 【参考となるWebサイト】

- ◆教師のための著作権講座
- ◆5分でできる著作権教育
- ◆著作権なるほど質問箱
- ◆文化庁著作権



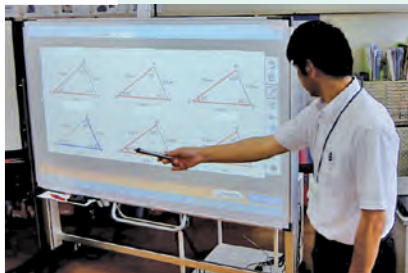
# シリーズ「教育のICT化」 ②電子黒板とタブレットPC

シリーズ「教育のICT化」の第2回目は、電子黒板とタブレットPCを活用した授業をご紹介します。

長崎県教育ICT化推進事業では、電子黒板やタブレットPC等のICT機器を効果的に活用し、児童生徒の興味・関心を高め、分かりやすく主体的な学習を促す授業を展開することで、学力向上及び情報活用能力の向上を目指しています。現在、県立学校5校、小中12校のモデル校が、実証研究を進めています。今後は、公開授業や研究発表等を行い、研究の成果を発信し、本県におけるICT教育の普及・発展を図っていきます。

また、今年度は、県内8地区で、ICT教育推進地区別研修会を実施し、その効果と活用について、実際にタブレットPC等を操作いただく演習等を通して、紹介します。

## ★授業の様子★



7月2日、千々石第二小学校で公開授業が行われました。児童は電子黒板やタブレットPC等の操作にも慣れ、授業に積極的に取り組んでいる様子が見られました。

## ★電子黒板の特徴★

- 拡大して提示できる。
- ボード上で操作ができる。
- 電子ペンで直接入力でき、焦点化しやすい。
- 資料データを汚さずに何度でも利用できる。
- ボード上に記述したことを保存できる。
- 外部映像を簡単に取り込むことができる。



## ★タブレットPCの特徴★

- 携帯性に優れる。
- すぐ使える(通常時、スタンバイ状態で使用する)。
- 指で操作できるので、視覚、感覚的に分かりやすい。
- カメラ機能(静止画、動画)があり、撮影後、すぐに見て、確認することができる。
- 画面の文字や絵の拡大縮小が簡単である。



H23.4 文部科学省「教育の情報化ビジョン」より(画像)

## ★学力向上に向けて★

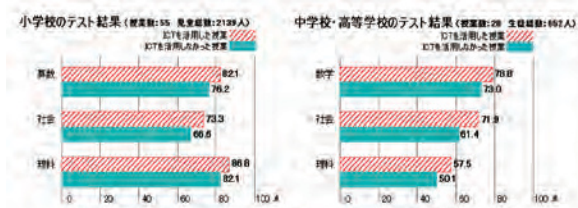


図3-1客観テストによって明らかとなったITC活用の効果!

H22.10 文部科学省「教育の情報化に関する手引」より

## 教育のICT化推進の3ステップ

- 1 毎日使って慣れる時期
- 2 適切に使う工夫をする時期
- 3 学力向上に向けて使いこなす時期

児童生徒に対する客観テストの結果によれば、ICTを活用した授業は、ICTを活用していない授業よりも、各教科の得点や「知識・理解」や「技能・表現」の観点で、高い効果が得られています。

## ★ICT教育推進地区別研修会の実施★

地区別研修会には、すべての小中学校から各1名の先生方にご参加いただき、講座後、校内研修等で全教職員に伝達いただきます。

講座番号	期日	地区	会場
1	セ122 10月 1日(水)	諫早・大村・東彼杵・川棚・波佐見	教育センター 本館5階大講堂
2	セ123 10月 6日(月)	佐世保・小値賀	佐世保市総合教育センター 中研修室1・2
3	セ124 10月 8日(水)	西海・長与・時津	時津町東部コミュニティーセンター 大会議室
4	セ125 11月 4日(火)	壱岐	壱岐文化ホール 2階大会議室
5	セ126 11月 7日(金)	対馬	峰地区公民館 2階講堂
6	セ127 11月11日(火)	平戸・松浦・佐々	たびら活性化施設 研修室1・2
7	セ128 11月20日(木)	五島・新上五島	五島市役所 大会議室
8	セ129 12月 8日(月)	島原・雲仙・南島原	島原市有明文化会館グリーンウェブ 多目的室

※ 長崎市は、長崎市教育研究所主催で別途実施



# シリーズ「言語活動の充実」② “学習指導要領から授業をつくる”「国語編」 ～重点指導事項と言語活動～

## こんな単元の構想をしていませんか？

- ◇児童生徒の学習意欲だけを優先していませんか？
- ◇指導者が好む学習活動だけを優先していませんか？
- ◇教材のもつ価値だけを優先していませんか？

このような授業へと改善を図りましょう。

## 学習指導要領の指導事項から授業をつくる！

重点指導事項設定の仕方と併せ、  
主体的に思考・判断できる学習過程に！

「単元を貫く言語活動」

## <単元の構想と展開>

### 【構想】

①年間の指導計画を組み、単元の目標を定める。

②単元の重点指導事項を絞る。

③重点指導事項とした国語の能力の定着に有効な言語活動を設定する。

### 【展開】

④言語活動を通じた重点指導事項の定着と児童生徒の主体的な学習を目指した指導を展開する。

⑤重点指導事項の定着状況を評価し、活用できる能力となっているかを検証する。

## <求められる国語科の授業改善>

全国学力・学習状況調査における本県の結果では、特に、小学校の国語科に課題が多く見られ、授業改善の重点教科となっています。毎年、各学校の熱心な取組によって、課題の一部は改善されていますが、国語科全体の課題改善には至っていない状況が続いています。

「単元で身に付ける国語の能力＝学習指導要領の重点指導事項」を明確にして、その定着に有効な言語活動を単元内に繰り返し設定する必要があります。

「単元を貫く言語活動」は、重点指導事項の定着と、児童生徒の主体的な学習展開のために求められる授業改善です。

## <単元構想の手順（例）>

- ① 年間の指導計画を組む段階で、学習指導要領、児童生徒の実態、教材の価値等を総合的に考え、単元の目標を定める。
- ② 年間の指導計画と単元の目標を踏まえて、単元の重点指導事項を絞る。
- ③ 重点指導事項の定着に有効な言語活動を学習指導要領にある例を基にして設定する。設定した言語活動を、学びの段階に応じて単元計画に具体化し、適切に位置付ける。
- ④ 繰り返し言語活動を行い、児童生徒が主体的に思考し、判断し、表現する学習過程により、重点指導事項の定着を目指す。
- ⑤ 重点指導事項の定着状況を確実に評価する。加えて、習得した国語の能力が他の教材文等でも活用できる能力になっているかを検証する。

「児童生徒が意欲的に取り組んだので…」 「教科書の教材文の解釈ができたので…」 といった授業評価にとどまらず、

**「他の物語文の読みにも活用できたから…」こんな授業評価に！**

今回は、算数科の「説明する力を付ける言語活動の充実」を紹介する予定です。

# 小・中学校 長崎県学力向上「活用教材」で学力アップ!



長崎県学力向上  
「活用教材」

県教育センターWebページのリンクボタンからご利用ください。  
※パスワードは、各学校の管理職の先生にお知らせしています。

《新しい活用教材Web発信日》  
10/31(金)  
1/30(金)



新しい活用教材を右の日にちにWeb発信します。  
活用教材は「全国学力・学習状況調査」に対応しています。5分から10分で解くことができる問題が満載です。朝自習や各教科の単元のまとめでも活用できます。

## 活用教材例

【小学校 社会 活用教材「水産業のさかんな地域をたずねて」】

2 東京で売られているブランドアジの価格には、どんな費用や工夫がふくまれているか考え、友だちと話し合しましょう。友だちの意見で「なるほど」と思ったものは赤で書き加えましょう。



長崎市内へは、いけす付きのトラックで輸送しますが、東京



魚をとって出荷するまでの費用や工夫

消費者へ届けるまでの費用や工夫



## 長崎県内教育研究所連盟「教育フォーラム」へのご案内

長崎県内教育研究所連盟は、講師に國學院大学人間開発学部教授の 安野 功 先生をお迎えして、下記の日程で「教育フォーラム」を開催します。多数の皆様の参加をお待ちしております。

【日 時】 平成27年1月16日(金) 9:45~16:00  
【会 場】 佐世保市総合教育センター  
【内 容】

<各研究機関による研究発表>

発表1 長崎県教育センター

『いじめの予防と対応』における校内研修の在り方についての研究

発表2 佐世保市教育センター

『共に生きる社会を築く子どもの育成』～対話型の授業づくりを通して～

発表3 長崎市教育研究所

「教科指導におけるICT活用の推進」

<講演> 『共に生きる社会を築く子どもの育成～対話型の授業づくりを通して～』  
國學院大学 教授 安野 功先生



安野 功先生

※ 申込みは、県教育センターWebページにアクセスし、Web情報 382号(12月初旬にWebアップ予定)から申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、12月19日(金)までにFAXまたは郵送にて当教育センターへ送付してください。

## 長崎県教育センター センター通信 第14号

〒856-0834長崎県大村市玖島1丁目24-2

子どもたちのよりよい変容のために、教育関係機関との連携を深め、実効性のある事業推進をめざします。

### 総務課

電話 : 0957 (53) 1131  
FAX : 0957 (54) 0578

### 企画課

電話 : 0957 (53) 1186  
FAX : 0957 (53) 1190

### 教科・経営研修課 義務教育研修班

電話 : 0957 (53) 1132  
FAX : 0957 (54) 6496

### 高校教育研修班

電話 : 0957 (54) 6341  
FAX : 0957 (54) 6496

### 特別支援教育研修班

電話 : 0957 (53) 1130  
FAX : 0957 (52) 9242

### 教育相談室

電話 : 0957 (52) 9241  
FAX : 0957 (52) 9242

Webページもご覧ください。

長崎県教育センター

検索



長崎がんぼろんぼ国体  
長崎がんぼろんぼ大会



## 平成25年度調査研究についてのご紹介（高等学校の教科指導関係分）

### 【研究主題】

高等学校国語科

新学習指導要領における言語活動の充実  
～伝え合う場の設定による

思考力・判断力・表現力を高める授業展開～

### 【研究内容】

- 1 「言語活動の充実」を目指した授業実践の収集
- 2 「言語活動の充実」に係るアンケートの実施

### 【研究成果】

「言語活動の充実」を目指した授業実践については、平成24年度分と合わせて現代文（評論・小説）、国語表現、古典の計4例を収集することができました。また、「言語活動の充実」に係るアンケートからは、生徒の話し合いや意見交換をする積極性は高まりつつある一方、その内容や質、文章理解力は低下傾向にあり、特に語彙力不足を懸念する声が多くありました。アンケートの結果をもとに、言語活動の年間計画の作成や校内での連携、言語活動の多様化や言語活動プロセスの構造化といった授業改善等について今後の取組の方向性をまとめています。日ごろの指導にお役立てください。

## 国語

### 【研究主題】

高等学校地理Bにおける生徒の

学習課題とその解決に向けた手法の開発

### 【研究内容】

- 1 新学習指導要領で求められている地理の学力の考察
- 2 大学入試センター試験の分析・考察
- 3 効果的な学習方法の考察

### 【研究成果】

地理を指導している五つの高校の先生方と、新学習指導要領で求められている地理の学力について考察を行うとともに、大学入試センター試験の問題について多角的に分析しました。その中で日常の授業で地理的思考力を高める授業の在り方について共同で考察を深めました。

これからの授業には、「地理的見方、考え方」を生徒が身に付けるよう、普段から思考力・判断力を育成するような場面を設けること、そのためには思考を促す適切な資料や問いの準備が求められていることが明らかになりました。研究内容3に関しては、指導案も作成しています。ぜひ参考にしてください。

## 地理

### 【研究主題】

高等学校数学科における

「課題学習」のよりよい実践に向けて

### 【研究内容】

- 1 「課題学習」の実施状況の把握
- 2 「課題学習」の実践上の課題に対する対応策の検証と改善
- 3 「課題学習」の指導事例の追加修正

### 【研究成果】

平成25年12月に県立高等学校56校を対象に「課題学習」の実践に関する実態調査を実施しました。「実践状況」「実践内容」「成果と課題」「その他」の観点から調査を行いました。また、「課題学習」について、年間計画での位置付けの徹底や指導案や教材の共有化を図る必要性、言語活動の充実やICTの活用などが、今後の課題として明らかになりました。また、平成24年度の調査研究で取り組んだ課題学習の指導事例について、数学A「場合の数と確率」「整数の性質」「図形の性質」で活用できる指導事例を追加し、合わせて15事例を挙げています。ぜひご覧ください。

## 数学

### 【研究主題】

高等学校理科における

新学習指導要領に応じた教材の開発

### 【研究内容】

- 1 「基礎を付した科目」を授業する上での課題整理とその対応策
- 2 「授業時数の不足感」「専門外の科目を教える不安感」の解消を目指した教材の開発

### 【研究成果】

「基礎を付した科目」を授業する上で、「生徒の理解に時間がかかった項目」、「専門外の基礎科目を担当する教員が指導する上で困難に感じた項目」について、理科の講座の受講者を対象に聞き取り調査を実施しました。その結果、この二つの質問に共通して、どの科目も「発展・参考の取扱い」が挙げられていました。また、研究内容2に関しては、平成24年度と併せて、生物基礎の「呼吸」「光合成」「免疫」「酸素解離曲線」「濃縮率の計算」、化学基礎の「水の性質」について、プレゼンテーションソフトを用いたデジタル教材を作成しています。ぜひご活用ください。

## 理科

調査研究の詳細については、[教育センターホームページ](#)を御覧ください。  
数学はホームページ内の「[玖島の杜](#)」に、その他については「[調査研究](#)」  
のバナーをクリックしてください。





## 特別支援教育の視点を生かした分かりやすい授業づくり

特別支援教育の視点を生かした分かりやすい教科等の授業づくりを進める際に、ぜひ参考にしたい授業づくり、平成24・25年度に「特別支援教育の視点を生かした分かりやすい授業づくり」と題して、調査研究を行いました。

当教育センターでは、「分かりやすい授業」を「通常の学級で大切にされてきた各教科の目標や内容を習得しやすくするための手立てと、児童生徒のつまずきの背景にある認知様式や障害特性を踏まえた視点、すなわち特別支援教育の視点が一体化された『要件』を含む授業のこと」と捉えました。その上で、当教育センターの所管が行った各教科（国語、社会、数学、理科、外国語（英語））の授業（各1単位時間）のVTRを基にして授業分析を行い、以下のような『要件』を導き出しました。その一部を紹介いたします。

### 各教科に特徴的な「分かりやすい授業の要件」

国語科	<p>国-① 抽象的な言葉や表現について、身近な事象や具体物等を示しながらイメージを持たせる。</p> <p>国-② 教師のモデルや友達の意見に触れさせながら、新たなもの見方・考え方・とらえ方を経験させる。</p> <p>国-③ 文章の構造や構成要素に着目させ、生徒自身が表現するときのヒントや工夫につなげる。</p>
社会科	<p>社-① 写真やグラフ、地図等の情報を関連付けて、事象に関する時代背景や要因、事象が及ぼした影響等のイメージを持たせる。</p> <p>社-② 事象を項目に沿って表にまとめて比較することで、本時のねらいや注目すべきポイントに気付かせる。</p>
数学科	<p>数-① 数学に関する用語や公式、図形やグラフ等の意味や性質について、視覚的な情報や具体的な操作によってイメージを持たせる。</p> <p>数-② 計算過程全体を可視化し、見通しを持って計算が実行できるようにする。</p>
理科	<p>理-① 演示実験に注目しやすしい工夫や環境設定を行うことで、実験の目的やねらいを明確にするとともに、手順や方法を確認させる。</p> <p>理-② 実験の目的を明示したり、結果を予想させたりすることで、実験に対する意欲や目的意識を持たせる。</p> <p>理-③ 条件を抑制した実験の際、「変える条件」と「変えない条件」を明確にし、実験の目的やねらいを焦点化する。</p>
外国語科 (英語)	<p>英-① 単語を「音(読み)」「形(文字)」「意味」を関連させながら発音したり書いたりさせる。</p> <p>英-② 表情やボディ・アクションを付けることで、スピーチの内容を推測させたり、内容を理解するうえでヒントにさせる。</p> <p>英-③ 英文を繰り返して聞いたり、生徒自身が話したりすることで、音の連いや語と語の連結による音の変化に気付かせせる。</p> <p>英-④ 「読む」「書く」「聞く」「話す」などの一つの活動に集中できるように授業構成を行う。</p>

### 全教科に共通する「分かりやすい授業の要件」

★1 目標、ねらい 学習の評価	<p>★1-① 毎時問行うドリル学習や課題テストで、自分なりの目標を持たせる。</p> <p>★1-② 関連した回答に対しても、発表したこと自体を認めることで次の学習への意欲につなげる。</p> <p>★1-③ 発表後、発表者の表現で良かった点や改善点を伝える。</p> <p>★1-④ 初回指導の際に「評価」をやる点多く目をつける。よい発言や態度などをさし上げなくす。毎める。</p> <p>★1-⑤ 自己評価表による本時の振り返りを行い、次時への意欲を喚起する。</p>
★2 学習の準備	<p>★2-① 授業の始めに、机の上に必要なものだけが出ているか確認する。</p> <p>★2-② 具体物一つずつ見せながら、同じものを準備させる。</p> <p>★2-③ 机上の整理をさせてから、必要なものを準備させる。</p>
★3 授業の構成	<p>★3-① 導入時に注意を引き付けられるような視覚的な提示やゲームなどをとする。</p> <p>★3-② 授業の始めに、予習で分からなかったことを把握する。また、授業の最後には理解できたか確認する。</p>

★4-① 作業や活動を止めさせてから指示をする。	★4 指示の出し方	
★4-② 始めからワークシートを配らないで、板書や教師の説明に集中させる。		
★4-③ 指示は肯定的な表現で行う。		
★4-④ 全体指示の後、丁寧に机間指導をして理解の程度や取組の状況を把握する。		
★4-⑤ ジェスチャーをつけながら指示を出す。		
★4-⑥ 言葉の指示だけでなく視覚的な手掛かりも与える。		
★4-⑦ 実際にやって見せて説明する。		
★4-⑧ 授業のまとめでは、ワークシートを使って整理する。		
★4-⑨ 指示の語調、声の大きさ、トーン等を工夫しながら話す。		
★5-① 見て(視覚)→読んで(聴覚)→書く(動作)等の様々な感覚を用いて情報を理解させる。	★5 教材教具	
★5-② 多様なレベル/パターンの課題を準備し、子ども自身が進捗に合わせて取り組めるようにする。		
★5-③ プレゼンテーションソフトで作った教材やICT等の視聴覚機器を利用する。		
★6-① ワークシートと対応させた板書を行う。		★6 板書の工夫 ノート指導
★6-② 文字の大きさに配慮し、後ろからでも見やすい大きさに書く。		
★6-③ 文字カードは重要なキーワードにのみ使用する。		
★6-④ 教科書のページを板書する。		
★6-⑤ ワークシートを拡大した用紙を黒板に貼って説明する。		
★6-⑥ 注目してほしいキーワードや重要語句を強調する(文字の大きさ、色、アンダーライン等)。		
★7-① 学習のヒントや既習事項を、補助黒板やワークシートなど様々に示す。	★7 学習環境	
★7-② ワークシートに記述した内容を発表する際、ワークシートを拡大投影する。		
★8-① 発表をペアでさせるように配慮し、教える機会を工夫する。	★8 学習形態 (ペア、グループ)	
★8-② 全体に発表する前に、ペアで練習する機会を設けて、自信や意欲を持たせる。		
★8-③ 「個人ワーク」「一斉」「グループワーク」「個人ワーク」というように、学習形態を組み合わせる。		
★8-④ 自力解決した結果をペアで確認させたり、友達へのアドバイスや助言を伝えさせたりして、自己の取組や活動を振り返らせる。		

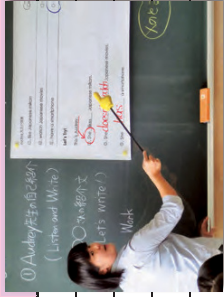
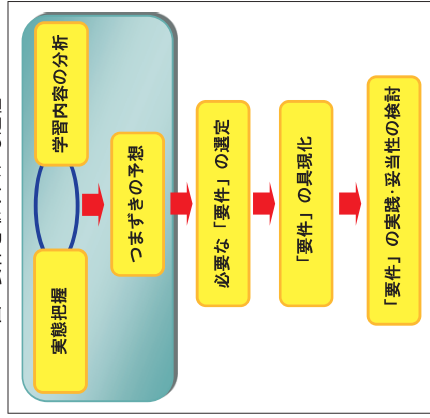


図 要件を取り入れる過程



全ての児童生徒にとって分かりやすい授業づくりを目指すためには、これらの特別支援教育の視点を生かした「分かりやすい授業」の要件を単に多く取り入れるというのではなく、右の図に示す過程を通して効果的に取り入れることが重要だと考えています。

### <研究報告書及び研修会の紹介>

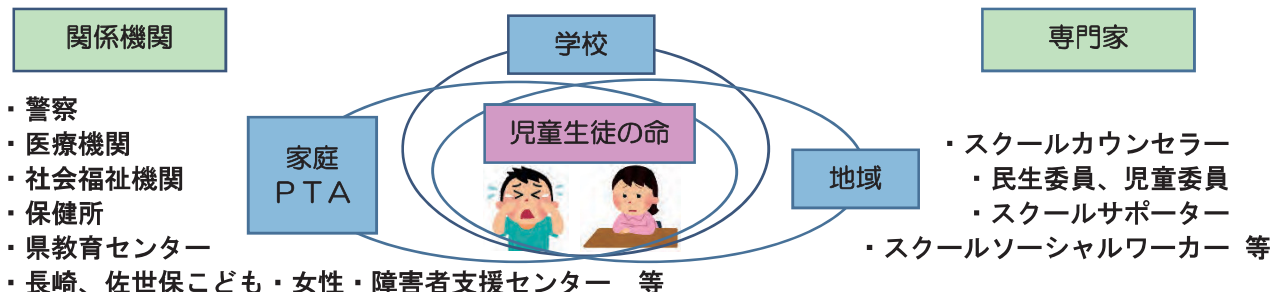
要件を効果的に取り入れる過程(右図)における留意点の詳細は、研究報告書(P32~P35)で明らかにしています。また、研究報告書には、授業の分析・考察を通してこれらの要件を取り入れた効果についても明らかにしています。

研究報告書は、当教育センターのWebサイト Home→調査研究→特別支援教育に関するものからダウンロードできます。ぜひご利用ください。ここで、ご紹介した内容の一部は、出前講座でお話することができま。

## 「いじめの予防と対応」には、家庭・地域・関係機関との連携も重要！

「info!ながさき第13号」では、「学校いじめ防止基本方針」に沿って、教職員が一丸となり、いじめの予防、早期発見、早期対応に取り組むことの重要性について紹介しました。学校の組織的な対応だけでなく、家庭・地域・関係機関や専門家との連携も必要です。

そこで、今回は、スクールサポーターとスクールカウンセラーの活動について紹介します。



### ★スクールサポーター

平成25年「いじめ防止対策推進法」が策定され、県の基本方針に「スクールサポーター等を通じて情報共有を進める」と示され、今後学校と警察のパイプ役を担っていくものと期待されています。

スクールサポーターは、警察官OBの方で、現在8警察署（長崎、浦上、時津、諫早、島原、大村、佐世保、江迎）に配置されています。県内（離島を含む）をブロックに分け、担当区域の学校への訪問活動を行うとともに、いじめや非行事案のような少年問題への対応、相談活動、児童の安全確保に関する助言等を行っています。

#### 【「いじめ」に関する相談対応事例】

スクールサポーターが中学校訪問時に、いじめに関する相談を受け、被害生徒やその保護者と面接をするともに校内巡回を実施しました。その後、保護者や民生委員による巡回活動へと発展しました。また、いじめ防止をテーマにした「非行防止教室」を実施し、再発防止も図られています。

平成25年11月、長崎市内小・中学校を対象に実施した、スクールサポーターに関するアンケートでは、90%がスクールサポーターの訪問や助言は役に立ったと答えています。その理由は、以下のようなことが挙げられました。

- ・いじめや非行などの問題行動への対応が専門的で頼りになる。
- ・事件になる前の事案でも気軽に相談でき、的確な対処法を教えてもらえる。
- ・定期的に来校してもらえるので情報を共有しやすく、警察との橋渡しとして心強い。

(アンケート回答者の感想から一部抜粋)



※連絡先は、スクールサポーターが配置されている8警察署内の生活安全課になります。

### ★スクールカウンセラー

児童生徒が抱える心の問題等に適切に対応するため、臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを小・中・高・特別支援学校に配置・派遣しています。スクールカウンセラーは、児童生徒へのカウンセリングを行うほか、校長等の指導の下、児童生徒のストレスマネジメント等の教育プログラムの実施や教職員のカウンセリング能力向上の研修、保護者に対する講演、研修会等を行うことができます。



※小・中学校の派遣依頼は、関係市町教育委員会を通して行います。

※県立学校の派遣依頼は、長崎県教育庁義務教育課児童生徒支援室に行います。